

活動での体感を社会人基礎力として定着させる。看護学教育における臨地実習のケース」

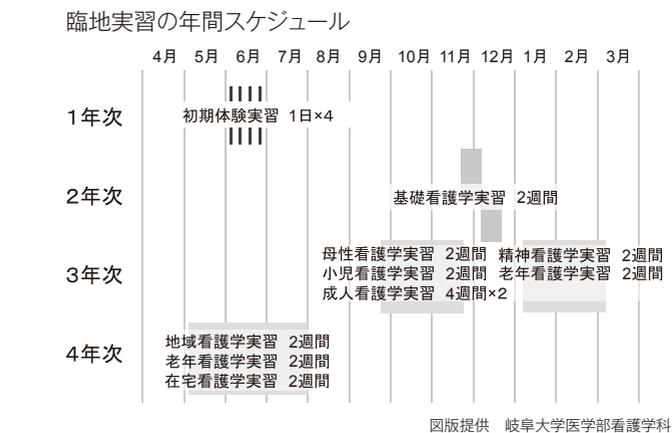
岐阜大学医学部看護学科

# 社会人基礎力発揮を振り返る場を設定し、 看護の現場で必要な 基礎力への気付きを促す

## 看護師の早期離職の原因には、社会人基礎力の不足も

看護師教育のカリキュラムでは、医療機関、保健センター、介護施設などで行う「臨地実習」が重要な位置を占めています。岐阜大学医学部看護学科では、1年次の初期体験実習を除く臨地実習に、発揮したまたは発揮しようとした「社会人基礎力」の「振り返り」を行う場を設定しました。

看護学科では、当然のことながら、将来看護専門職として医療を担う人材を育てるため、「社会人基礎力」に相当する能力の育成を行っています。しかし、その能力を明確に定義付けし、教員や臨地実習指導者、学生が意識して育成に取り組むことは、なされてきませんでした。



一方で、最近では看護師の離職率が増加しているという問題があります。その原因には、新人看護師の看護実践能力の不足もさることながら、同じ現場で働く人とのコミュニケーションがうまく取れなかったり、困難な状況にぶつかるとすぐ挫折してしまったりという、まさに「社会人基礎力」発揮の不足によるものが多いと言われています。岐阜大学では、実際の看護を経験する臨地実習で学生に「社会人基礎力」の重要性を学んでもらうために、従来から行っていた臨地実習評価表に加えて「社会人基礎力」の評価表を使用し、「社会人基礎力」発揮の振り返りを行うことにしました。

看護学科の「臨地実習評価表」は、看護過程の展開だけでなくさまざまなスキル項目も評価することになっていますが、基礎看護学実習や成人看護学実習、地域看護学実習など実習単位ごとに使用している用語が統一されていなかったため、継続して育成していくものであるという認識を持ちながら実習をすすめることが困難でした。「社会人基礎力」の要素は、まさにこの欠落を埋めるものです。

## 学生だけでなく受け入れ先のスタッフにとっても、 看護職に必要な要素が明確になる

看護教育の中に「社会人基礎力」の能力要素の分類を対応させると、「前に踏み出す力」は、患者などのことを理解して科学的根拠に基づいた看護を実践できるような専門的知



カンファレンスの様子

## 臨地実習科目の構成と単位

実習科目	単位(時間数)	配当年次(時期)
初期体験実習	1 (45)	1学年(前学期)
基礎看護学実習	2 (90)	2学年(後学期)
母性看護学実習	2 (90)	3学年(後学期)
小児看護学実習	2 (90)	3学年(後学期)
急性期看護学実習	4 (180)	3学年(後学期)
慢性期看護学実習	4 (180)	3学年(後学期)
老年看護学実習 I	2 (90)	3学年(後学期)
老年看護学実習 II	2 (90)	4学年(前学期)
地域看護学実習	2 (90)	4学年(前学期)
在宅看護学実習	2 (90)	4学年(前学期)
精神看護学実習	2 (90)	3学年(後学期)
※助産学実習 I (選択)	6 (270)	4学年(前学期)
※助産学実習 II (選択)	1 (45)	4学年(後学期)

資料提供 岐阜大学医学部看護学科

識・技術および態度の発揮にあたります。「チームで働く力」は、専門的知識の裏付けのもと自らの役割を認識・理解して、ケアに関わる人や地域と連携して看護活動ができるような能力です。そして、「考え抜く力」は、さまざまな情報を論理的に統合しながら個性に配慮したケア内容を見出す力であると言えます。さらに、看護の現場では、命の尊厳を理解し、看護専門職として持つべき倫理観が必要であり、この能力は、「前に踏み出す力」「考え抜く力」にも影響します。そのため、「倫理」の分類を加えた13の能力要素からなる評価シートを作成しました(詳細はP323、シートはP327～P330参照)。

そして、学生の実習先の施設に「社会人基礎力」の意味と評価シートの意図を説明し、「社会人基礎力」発揮の観点から実習指導にあたってもらうように依頼しました。

この評価シートの導入に際して、受け入れ先の臨地実習指導者からは「社会人基礎力の項目のチェックが」やっと来たか、という感じだ」「実習を受け入れる私達自身にも必要な要素が詰め込まれている。学生を評価しながら、実は自分達が評価されているという錯覚に陥るくらい、この内容には感じ入るものがある」と、非常に好意的に受け入れられていました。きちんと定義付けられた「社会人基礎力」の能力要素を使うことで、学生はもちろんのこと、教員や実習受け入れ施設の指導者が、どのような能力を伸ばしていけばよいのか明確になり、また、学生の書いた評価シートなどを読むことで、学生を把握することができたため、指導がしやすくなったという声もありました。

また、実際にシートを使った学生からは「自分は一人で頑張るのがよいことだと思っていたが、人を巻き込んで一緒に考えることもよりよいケアにつながると思った」「『ストレスコントロール力』という点では、実習グループの仲間に話すだけでもストレスが軽くな

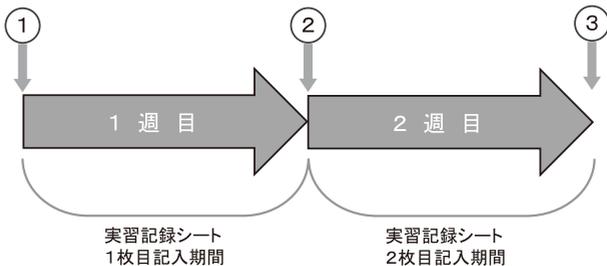
## ■実習のスケジュール

岐阜大学医学部看護学科の臨地実習は、上表のように行われます。1年次の初期体験実習は、看護現場の見学を中心とした実習で、2年次の基礎看護学実習以降は、実際に入院患者を受け持ち、看護を行います。平成21年度は、2年次から4年次の臨地実習に「社会人基礎力」発揮の評価と振り返りを導入しました。

2年生は80名を14グループに分けて2週間の実習を行いました。3年生は80名を8グループに分け、16週間の中で6種類の看護学実習をローテーションで行います。今回は、前半の8週間について評価と振り返りを行いました。また、4年生は2～6名のグループに分かれて実習を行いました。実習中、学生は毎日「実習記録」を記入します。この実習記録は、①患者の基礎情報を記入する用紙 ②患者の情報を整理・分析して記入するアセスメント用紙 ③患者への介入プログラムを記入する看護計画用紙 ④計画の実施結果を記入する用紙から成り、相当の記入量があります。実習期間中は、学生と実習先の指導者、教員が参加したカンファレンス(※)を行います。

※それぞれの学生が受け持つ患者の症状や看護上の問題点について情報交換を行い、今後の看護ケアの方向性を検討する

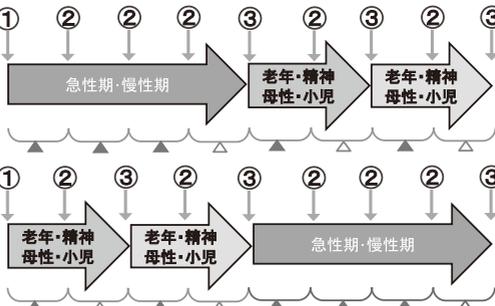
2年生の臨地実習における各評価シートの評価スケジュール



- ①:【事前】評価シート提出・返却
- ②:実習記録シート1枚目提出・返却
- ③:実習記録シート2枚目と【中間】評価シート提出・返却

図版提供 岐阜大学医学部看護学科

3年生の臨地実習における各評価シートの評価スケジュール



- ①:【事前】評価シート提出・返却
  - ②:実習記録シート提出・返却
  - ③:【中間】評価シート提出・返却
- ▲:実習記録シート記入期間  
△:【中間】評価シート記入期間

図版提供 岐阜大学医学部看護学科

事前・中間・事後に加えて、1週間ごとの自己評価で成長を実感する  
 社会人基礎力発揮の自己評価と指導者・教員からのコメント

「社会人基礎力」の自己評価と指導者・教員のコメントは、上図のスケジュールのように行われました。

自己評価

学生は、①事前、②中間、③事後と④1週間ごとに自己評価する「実習記録シート」の4種類の評価表を記入しました

①事前評価  
 各年次の臨地実習直前に行うガイダンスでは、実習期間中の自己評価シートの記入方法の説明と「事前評価シート」(p327)の記入を行いました。

②中間評価・④「実習記録シート」  
 2週間で終わる実習は、1週目の終わりにその週の「実習記録シート」(p330)を記入し、実習の最終日となる2週目の終わりに「中間評価シート」(p328)を記入。4週間の実習の場合は、1〜3週目の各週の終わりに「実習記録シート」を記

社会人基礎力育成のための教育プログラム(2年生用)

社会人基礎力育成のための教育プログラム  
 評価シートの記入と提出方法について(学生用)

2009.11.19

【2年次後学期の基礎看護学実習】

1. 記載シートの種類

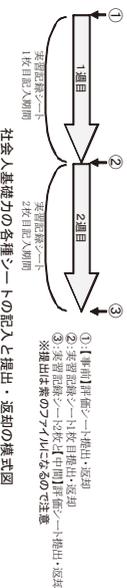
- ①事前評価シート:実習期間を通して1枚
- ②中間評価シート:実習期間を通して1枚
- ③事後評価シート:実習期間を通して1枚
- ④実習記録シート:1週目と2週目に1枚ずつ2枚

2. 各種シートの記載内容・方法及び提出方法

- 1) 実習開始前の流れ(11月19日)  
 ①配布されたフラットファイル(紫)「社会人基礎力育成のための教育プログラム」に学籍番号・氏名を記載する。  
 ②「事前」評価シート」を記入する(時間内に記入しきれない場合は、実習初日までに記入する)。

実習期間中の流れ(実習終了時まで)

- 1) 記入が終了した【事前】評価シートを最初の実習の初日に担当教員に紫のファイルに綴じたまま提出する。
- 2) 学生は、実習期間中ずっと紫色のファイルは携帯する。
- 3) 学生は、1週目の最終日(臨床での最終日)までに「実習記録シート(1枚目)」の各項目を記載する。各能力について、その場面があった日にできるだけ早くその部分を埋める(提出日に基とめて書く必要はない)。
- 4) 1週目の最終日(臨床での最終日)の朝、「実習記録シート(1枚目)」を担当教員に提出する。(紫のファイルに綴じたまま)。
- 5) 学生は、2週目の最終日(臨床での最終日)までに「実習記録シート(2枚目)」の各項目を記載する。各能力について、その場面があった日にできるだけ早くその部分を埋める(最終日に基とめて書く必要はない)。
- 6) 最終週の最終日(臨床での最終日)の朝までに「実習記録シート(2枚目)」と【中間】評価シート」の学生記入欄を記入して紫のファイルに綴じたまま担当教員に提出する。
- 7) 教員から紫色のファイルを受け取る。



社会人基礎力の各種シートの記入と提出・返却の模式図

- ①:【事前】評価シート提出・返却
  - ②:実習記録シート1枚目提出・返却
  - ③:実習記録シート2枚目と【中間】評価シート提出・返却
- ※提出は紫のファイルになるので注意

実習前半終了後の流れ(12月24日を予定)

- 1) 臨地実習で使用したフラットファイル(紫)「社会人基礎力育成のための教育プログラム」を持参する。
- 2) 【事後】評価シート」を記入する。できるだけ当日までに転記は終了しておく。他の部分の記入も可能なら終了しておく。
- ①【事前】評価シート、【中間】評価シートのレベルの評価の数を転記する。
- ②【事後レベル】の部分に臨地実習を半分終了した時点でのレベル評価を1〜3で記入する。
- ③【前に読み出す力】「考え抜く力」「チームで働く力」「論理」の4点について、前半の実習全体を振り返りながら具体的な行動事実を記入する。
- ④【活用した(学んだ)専門知識やスキル等】の部分に記入する。(教員の記入になっているが、学生自身が記入する) ※関連科目名は実習に直接関係のない共通教育などの科目でも良い、ただし、どの部分が活用できたのか【内容】の部分に記入する。
- ⑤【チームとしての】活動成果」と「実習での役割・担当としての活動」は使用しない。
- 3) 【事後】評価シートの記入が終わったら(転記途中であっても時間になったら)、教員とグループ面接をして成長と気づきの振り返りを行う。
- 4) 社会人基礎力WGの教員からの全体的な講評とまとめを聞く。

注意事項

- 1. 基本的に各種シートは紫のファイルから外さない。 ※記入時を除く
- 2. 実習中はたえず携帯する。
- 3. 臨地実習において、患者や入所者などの対象と話しをして語りを傾聴することは、傾聴力ではなく、相手を巻き込み、気持ちや考え方などの情報を得たり、介入のための第一歩としての働きかけとなるため、「働きかけ力」になる。
- 4. 一度に全ての能力要素の出来事があるわけではないため、できるだけ出来事があった日にその部分の記入を心がける。
- 5. 【中間】評価シートの「評価の視点」は、実習記録シートからの転記も可能である。

## 評価基準

レベル1	発揮できない（どうしてもできない）
レベル2	通常の状況では発揮できる（何とかできる）
レベル3	通常の状況で効果的に発揮できる（見事にできる）、 または、困難な状況でも発揮できる（とても難しくても、何とかできる）

入し、最終週の4週め終わりに「中間評価シート」を記入するというように、一つの実習が終わる度に、「中間評価シート」の記入を行いました。

③事後評価

実習期間が終了した時点で学年ごとに集め、「事後評価シート」（p329）の記入と、教員によるグループ面接を行いました。グループ面接では、「社会人基礎力」が発揮できた（または発揮できなかった）かを検討し、実習中の場面を振り返り、今後自分が身に付けるべき力について話し合い、共有しました。

### ■指導者からのコメント

臨床指導者と実習担当教員は、「事前評価シート」や「実習記録シート」を閲覧し、学生の体験や成長を掌握した上で、「中間評価シート」へ評価を記入しました。実習施設によって受け入れ体制や協力の度合いが違うことから、臨床側の評価の仕方は、

- ・1名の評価者が実習期間を通して一貫して評価する
- ・日々替わる指導者からの情報を集約して看護師長が代表して評価する
- ・日々の指導者が情報を共有する専用ノートを自ら作成するなど、さまざまでした。また、カンファレンスの最後に、「社会人基礎力」について学生が口頭で振り返りを行った施設もありました。

### ↳臨地実習に特化した「発揮事例」で学生に求められる行動を示す ↳社会人基礎力のレベル評価基準

岐阜大学医学部看護学科では、レベル評価基準とシート類については、平成19年度のリアレンスブック（※）に掲載されているものを、ほぼそのまま踏襲した形で使用しています。ただし、能力要素は「倫理性」を加えた13として、能力要素の定義も臨地実習に合うように変更し（p324参照）、臨地実習で実行できるであろう発揮事例の一覧（p325～p326参照）も用意しました。

例えば、「働きかけ力」は、単に「他人に働きかけ巻き込む力」と示すだけでなく「看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで実習（学習）を進めることができる力」と具体的に示し、働きかける対象（患者、入所者、地域住民や臨床指導者、教員など）と内容（健康問題に取り組む、学習を進める）を明確にしました。これにより、学生はそれぞれの能力要素についてイメージしやすくなったと思います。そして、実習担当教員や臨床の指導者にもアドバイスをする視点を明確化しやすくなったはずです。

これらのように各能力要素に対する詳細な定義や具体的行動事実の例を提示することは、看護職を目指す学生だけでなく臨床の指導者や実習を担当する教員にも「社会人基礎力」の育成で目指すものが明確化できるため、非常に重要であると思います。なお評価基準はレベル1～3（上表）としました。

※平成19年度に経済産業省から発行された社会人基礎力育成・評価のためのリアレンスブック『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』

実習場面における社会人基礎力を構成する能力要素と具体的行動事実の例

実習場面における社会人基礎力を構成する能力要素と具体的行動事実の例	
平成 21 年 11 月 19 日	
<b>前に踏み出す力（アクション）</b>	
<b>主体性：</b>	進んで学習を深める 進んでチーム内の役割などを引き受ける 学生から指導者や教員に実習の計画を伝えたり介入の報告をしたりする 学生から積極的に調べても分からない部分を指導者や医師に質問する 例：図書館で受け持ち患者の疾患について調べた 実習に必要な技術について実習後に学内に戻って確認した
<b>働きかけ力：</b>	（主体性と一部重なる。主体性が無いとこの力は発揮できない） 教員や指導者から助言を引き出す 医師から患者の疾患の特徴などについて説明を受ける 学生が考案した介入の手法や退院指導などを指導者や医師に確認してもらい指導を受ける 患者や患者の家族から疾患や入院生活、治療などに関する気持ち・思いを引き出す（患者や家族の話を傾聴する） 患者から内服やリハビリなどの療養行動を開始・継続する気持ちや力を引き出す
<b>実行力：</b>	（働きかけ力と重なる部分が多い。もちろん主体性が無くてはこの力を発揮できない） 患者のベッドサイドに行くことができる 患者とさまざまな会話をすることができる 計画した患者に必要な介入を行うことができる ※「主体性」や「働きかけ力」で記述した内容の行動部分はここに含まれる
<b>考え抜く力（シンキング）</b>	
<b>課題発見力：</b>	患者が抱える健康上の問題（看護問題を含む）を明らかにできる 実習を行う上で自分自身が抱える心理的な問題点や技術上の問題点、学生であるための介入の限界などに気付くことができる
<b>計画力：</b>	課題発見力で発見した問題点を解決するための計画をたてること 実習期間および日々の実習を計画的に進めることができる
<b>創造力：</b>	計画の中に受け持ち患者とその家族のもつ個性を生かした手法を取り入れることができる 例：片麻痺患者の今の患側の関節可動域維持と筋拘縮を防ぐための更衣方法を考えた 患者の身体的負担と疲労を増強させないような足浴の物品配置を考えた

社会人基礎力として必要な能力要素の意味

3つ力	能力要素	能力要素の意味
（前に踏み出す力）	主体性	物事に進んで取り組む力 （看護の知識や能力を向上させるため、自らの意志で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる力）
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 （看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで実習（学習）を進めることができる力）
	実行力	目的を設定し確実に実行する力 （対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる力）
（考え抜く力）	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにし準備する力 （対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる力）
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 （対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる力）
	創造力	新しい価値を生み出す力 （対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を生かした新たな介入方法を提案することができる力）
（チームで働く力）	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 （指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる力）
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 （相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる力）
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力 （自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる力）
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 （多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる力）
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力 （社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある規範となる行動をとることができる力）
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力 （ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる力）
倫理	倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる力

資料提供 岐阜大学医学部看護学科

このように、学生の自己評価と他者評価を通して、「社会人基礎力」を発揮していくことが非常に重要であることを、学生のみならず、実習施設にも印象付けることができると。しかし、学生の自己評価を受けて、できるだけ早い評価シートへの記入とフィードバックを求められた臨床の指導者や実習担当教員の負担が大きかった点に問題が残ります。岐阜大学では、今後はそれぞれのシートの内容を吟味して、「社会人基礎力」の内容を既存の実習用のシートに組み込んでいくなどの工夫をして、負担を軽減してより多くの場面で継続的に使えるよう、改善を図ることにしています。

記入者の負担の軽減が課題

このように、学生の自己評価と他者評価を通して、「社会人基礎力」を発揮していくことが非常に重要であることを、学生のみならず、実習施設にも印象付けることができると。

## 事前評価シート

【事前】評価シート			
氏名		学籍番号	記入日 平成 年 月 日
グループ	グループ	実習名	担当教員
実習施設・病棟		実習期間	月 日( ) ~ 月 日( )
実習に際して	実習を通じた将来の目標		
	これまでの取組の振り返り (今まで学んできたことや身に付いた能力・知識、また、反省点や課題について)		
	実習を通して向上させたい社会人基礎力の能力		
	実習を通して身につけたい専門知識、スキル		
	実習を通して出したい成果のイメージ		
教員・指導者への連絡・相談 (特になければ、空欄でも構いません)			
自己分析	社会人基礎力の分類	能力要素	現在のレベル (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか)
	前に踏み出す力 (アクション)	主体性	1・2・3
		働きかけ力	1・2・3
		実行力	1・2・3
	考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	1・2・3
		計画力	1・2・3
		創造力	1・2・3
	チームで働く力 (チームワーク)	発信力	1・2・3
		傾聴力	1・2・3
		柔軟性	1・2・3
状況把握力		1・2・3	
規律性		1・2・3	
ストレスコントロール力		1・2・3	
倫理	倫理性	1・2・3	
教員・指導者からの講評・アドバイス			教員・指導者名

チームで働く力 (チームワーク) ※実習グループの一員であること、患者のケアに関わる病棟のチームの一員であることを認識した上で発揮する力

**発信力:** (主体性や実行力と重なる部分あり)

指導者や教員に自分の考えやその日に行う予定の計画を伝えることができる  
カンファレンスで発言することができる

**傾聴力:** 指導者や教員からの意見や助言 (アドバイス) を最後までしっかり聞くことができる ※患者の言葉の傾聴は「働きかけ力」

カンファレンスでグループメンバーの意見や助言 (アドバイス) を最後までしっかり聞くことができる

**柔軟性:** 指導者や教員からの意見や助言 (アドバイス) を受け止め、納得した上で自分の考えていた内容を変更していくことができる

グループメンバーの意見や助言 (アドバイス) を受け止め、納得した上で自分の考えていた内容を変更していくことができる

患者の状態や病棟の状況によって、指導者と行う介入のタイミングを納得して変更することができる

**状況把握力:** (状況を把握することで柔軟な行動につながる)

他者の発言を遮って発言することがない (傾聴力とも重なる)

指導者の動きを察知しながら指導を受けて実習を行っていくことができる  
病棟内やベッドサイド、カンファレンス場面で、自分の置かれた状況や役割 (発表者、助言者、ケアの直接的援助者、ケアの介助者、どこまで手や口を出して良いか) を理解して行動に結びつけることができる

**規律性:** 病棟スタッフに挨拶ができる (朝、夕、昼食の入りと戻り時点)

患者に挨拶ができる (朝一番、実習終了時)

実習に遅刻しない

患者とケアの予定を相談し、予定に従って行動できる

実習学生としてのマナー (身だしなみ、言葉遣い) を守ることができる

**ストレスコントロール力:**

ストレス状況に置かれたときに適切にストレスを発散できる (実習場面、帰宅後も含める)

強いストレス状況を作らないような人間関係の維持や、実習記録をためてストレス状況を作らないようにすることができる

## 倫理

**倫理性:** 患者への適切な言葉遣いや内容の会話をすることができる

患者のプライバシーに配慮したケアができる

知り得た情報を外部に漏らさない

学生として知り得た情報を指導者に報告できる (その際、学生ということで報告の義務があることを患者に伝えておく必要がある)

患者を特定できるような情報を記入せずに実習記録を書くことができる

**【中間】評価シート** 各分野実習の終了時点での評価  ……学生本人記入欄  ……教員記入欄  ……外部評価者(指導者等)記入欄  ……教員・指導者記入欄

氏名	年	施設・病棟	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	実習期間	月	日	～	月	日	担当教員	外部評価者	今後の行動目標
社会人基礎力の分類	能力要素	自己の評価	評価の根拠(具体的行動事実)	教員のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	外部評価者(指導者等)のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	教員は外部評価者(指導者等)の総合評価	今後の行動目標								
前に踏み出す力(アタラシイ)	主体性 働きかけ力 実行力																
考え抜く力(ソソギベク)	課題発見力 計画力 創造力																
チームで働く力(チームワーク)	発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力																
倫理	規律性 ストローク コントロール力 倫理性																
その他習得を目指す知識・スキル等	実際に活用した(学んだ)知識・スキル等																
現在の実習の達成度から見た今後の行動目標	気づいたこと																
教員・指導者への連絡・相談	今後の行動計画																
教員・指導者からの講評・アドバイス	教員・講師名																

事後評価シート

**【事後】評価シート** 実習全体の振り返り  ……学生本人記入欄  ……教員記入欄  ……教員・指導者記入欄

氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	実習名	1	2	3	内容
学年	施設・病棟	1	2	3							
分類	要素	事前レベル	中間レベル1	中間レベル2	中間レベル3	事後レベル	具体的な行動事実(能力要素レベルの推移を証明できる事実)	関連科目名			
前に踏み出す力(アタラシイ)	主体性 働きかけ力 実行力						活用した(学んだ)専門知識やスキル等				
考え抜く力(ソソギベク)	課題発見力 計画力 創造力										
チームで働く力(チームワーク)	発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力										
倫理	規律性 ストローク コントロール力 倫理性										
教員・講師からの講評・アドバイス	教員・講師名										

実習記録シート				□□□□ …学生本人記入欄		□□□□ …教員記入欄	
氏名		学籍番号		記入日	平成 年 月 日( )		
実習名		実習施設・病棟		学年	年		
実習期間	月 日( ) ~ 月 日( )			第 週			
分類	能力要素	発揮(しよう)した または 発揮できなかった 能力	評価の根拠 (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか等を具体的に記入) ※裏面に12の能力要素と倫理力の説明あり				
前に踏み出す力 (アクション)	主体性						
	働きかけ力						
	実行力						
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力						
	計画力						
	創造力						
チームで働く力 (チームワーク)	発信力						
	傾聴力						
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性						
	ストレスコントロール力						
倫理	倫理性						
教員への連絡・質問・悩み・その他(問題点を含むチームの活動状況)							
担当教員からのコメント							